



## 信州サイエンスミーティング（県内理数科・SSH指定校等合同発表会） 2年 SSH 女子生徒が課題探究「みその秘密にせまる」の成果を発表



プレゼンテーションソフトを活用して口頭発表する諏訪清陵高校 SSH コース代表生徒による「みその秘密にせまる ～なぜみそによる食中毒報告は0件なのか？～」の発表風景

平成27年3月14日(土)信州大学理学部において信州サイエンスミーティング(主催信州サイエンスキャンプ事業推進委員会)が、本校2年生6名を含む長野県下のSSH指定校、理数科設置校生徒教職員、信州自然エネルギー・環境教育支援事業に参加している高等学校生徒教職員、そして信州大学の学生教職員合計200名余が参加して開催されました。

信州サイエンスミーティングは、高校と大学の連携・交流を通じて県内高校の理数分野の課題研究のレベルアップを図るため開催されています。

当日は、本校生徒と木曾青峰高校生徒が運営を任せられ、受付、開催式、口頭発表会、閉会式の司会などを行いました。

口頭発表会では、9時45分から昼を挟んで14時過ぎまで3時間余、県内理数科およびSSH指定校9校と本年度信州自然エネルギー・環境教育支援事業の最優秀賞を受賞した駒ヶ根工業高校の10校が、1組ずつプレゼンテーションソフトを使って行いました。一つひとつの発表に対して参加者から熱心な、また発表者に敬意を払った質問や助言がたくさん出ていたことが印象的でした。本校2年SSHコースの代表として参加した生徒も積極的に発言し、他校の生徒と交流している姿が見られました。本校と同様にSSH指定校である屋代高校の生徒も積極的に発言している姿が印象的でした。

午後は、14時過ぎから1時間30分余り会議室に会場を移してポスター発表が行われました。信州大学からは理学部3年生、理学部教官のポスター発表があり、高校生のポスター発表と合わせて計55組の研究グループがポスターを使って研究



当日の運営をになった本校2年SSHコース生徒諸君



大学の先生方、大学生、高校生にポスター発表する諏訪清陵高校生徒



成果の発表を行い、活発な意見交換が行われました。

本校からは「みその秘密にせまる ～なぜみそによる食中毒報告は0件なのか？～」のグループが口頭、ポスター発表しました。彼女らは、地場産業である味噌に目をつけ、株式会社竹屋、伊藤味噌醸造店に取材のうえ一年間探究活動を実施しました。その結果、味噌には大腸菌に対する抗菌作用があること、その主因は乳酸菌が分泌する乳酸その物である可能性を示しました。

講評では、「論理的な研究の進め方、生物的興味から始めて原因を化学的に解明かそうとする態度と取組みが素晴らしい」と評価されました。